

（件名） サハリン州における新型コロナ流行状況と州政府の新年度予算について

## （1）サハリン州における新型コロナウイルス感染症の流行状況について

ロシアにおける新型コロナウイルス陽性者数は、330万人超と世界第4位であり、死者数も6万人を越え、依然深刻な状況が続いています。人口が北海道の約10分の1であるサハリン州においても、確認された陽性者の累計は16,880人(2021.1.7現在)、ここ1~2ヶ月は1日の陽性確認数がおよそ140人台で高止まりしており、感染の拡大に歯止めがかかっていません。

州では、バスや商店でのマスクの着用義務や飲食店の深夜営業の禁止を知事令で定めていますが、路上はもとより職場や飲食店など、着用義務のない場所でマスクをしている人は少なく、北海道に比べて、三密を回避しようという考え方は希薄であると言えます。

一方で、サハリン州では、12月6日に国産ワクチン「スプートニクV」の一般市民への接種が始まりました（モスクワ市に次いで二番目）。また、11月末の段階で、既に人口の約18%（約9万人に相当）が免疫を持っているとの地元担当官の発言もあり、集団免疫の獲得に向けて、効率的かつ迅速なワクチンの普及が課題となっています。

## （2）サハリン州政府の新年度予算について

このように、コロナに臆することなく、州民生活は表面上平静を保っていますが、12月23日に決定した2021年の州政府予算(ロシアの予算年度は1月始まり)では、地域経済への影響が顕著に反映されています。

歳入予算は、2019年には1,600億ルーブル（約2,400億円；1ルーブルは約1.5円）に達し、大型の政策に多くの予算を投入できましたが、昨今の原油価格の下落が州経済の核であるエネルギー産業にも響き、2021年は、法人税が前年比マイナス450億ルーブル（約675億円）と半減、歳入総額でも四割減となる1,092億ルーブル（約1,638億円）の計上に留まりました。

また、2021年の歳出予算総額は1,295億ルーブル（約1,943億円）と、借入などにより減少幅を二割ほどに抑えたものの、社会福祉や住宅・公共サービスなど、市民生活に直結する経費も軒並み減額となりました。一方で、教育や保健医療等では、削減されつつも前年より配分比率を少しでも高めることで、可能な限り住民サービスを重視しようとする姿勢も窺われます。

今後は、世界経済の動向にも左右されますが、州としては、ワクチンの普及などにより新型コロナウイルスのこれ以上の拡大を抑え、一日でも早く地域経済の回復につなげるのが課題となります。

